

らいさんか 礼讃歌

■ 楽曲データ

歌詞：明如上人・大谷籌子・大谷絢子・大谷嬉子・九條武子 作詞

楽曲：藤井制心 作曲

発表：－

初演：－

初出：－

管理番号：M0141

■ 創作の経緯

1928（昭和3）年頃の作曲とみられる。本願寺仏教婦人会の求めにより作曲され、メロディーは3番「安かりし」に基づいて書かれたという。1935（昭和10）年にビクターよりレコード化され、文部省より優良レコードの指定を受けた。一部資料では、1番と4番に異なる和歌が用いられている。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第5巻収録

底資料：『和英標準佛教讃歌勤式集』 本派本願寺内翻譯課 1939年

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

限りあるいのちゆえに避けがたい矛盾をいだきながらも、阿弥陀さまの限りない智慧と慈悲の大なる光に出会った喜びが歌われています。私たちの宗門のご門主やお裏方などが詠まれた和歌を詞として、仏教婦人会の求めにより作曲されました。

◆ 作詞者について

・明如上人（1850～1903）^{みょうじょうにょ} 本願寺第21代宗主。父・広如上人^{こうじょうにょ}の影響により、和歌にすぐれました。

・大谷籌子^{かずこ}（1882～1911）^{きょうじょうにょ} 第22代鏡如上人裏方。仏教婦人会や京都女子専門学校（現・京都女子大学）の創立に力を注がれました。

・大谷絢子^{きぬこ}（1893～1974）大谷光明夫人、第23代勝如上人の母。

・大谷嬉子^{よしこ}（1918～2000）第23代勝如上人裏方。著書『親鸞聖人の妻 恵信尼公の生涯』（本願寺出版社より復刊）のほか、作歌も多く手掛けられました。

・九條武子（1887～1928） 第21代明如上人の二女、第22代鏡如上人の妹。大谷篤子裏方を助けて、仏教婦人会の設立や女子教育事業、社会事業などの発展に尽力。歌人としても知られ、歌集『金鈴』『薰染』、随筆集『無憂華』などを遺されました。

◆作曲者について

藤井制心（1902～1972）は、アメリカ・サンディエゴ州立大学卒業後、関西や愛知県の合唱界の育成と、平曲の採譜に力を注ぎました。著作には『仏教音楽史概説』があり、作曲家として仏教讃歌も数多く遺しています。特に、西洋音楽と伝統的な東洋音楽との融和を目指した点は高く評価されるべきものです。

◆演奏上の注意

「朗詠風に」の指定に従い、語感を大切にしながら一語一語に心をこめて、語るように歌ってください。多少のアゴーギク（テンポを自由に揺らす）をもって歌えば、さらに感動的です。アゴーギクは通常、フレーズの前半を急ぎ、後半をゆったりとおさめます。

高音では決して声をはり上げないようにしましょう。高い音域は「アゴを引いて、息に声をのせるように」が原則です。

最後の2小節は、しっとりと静けさのなかにとけこむように歌い終えてください。全体に必ずレガート（なめらかに）をこころがけてください。

◆用途

午後や夕刻の法座の終わりなど、しっとりとした雰囲気が見られるような場面で歌ってみましょう。法座の冒頭で、雑然とした雰囲気を落ち着かせるときに歌うのもよいでしょう。3番「安かりし」は特に、一日のプログラムの終わりに歌われると、深い印象を与えます。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 6（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第131号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.